

やませみ 通信



<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

(やませみは興津川の清流のシンボルです)

市民の森づくりでタケノコ堀を体験!! 収穫は楽しいネ



NO. 36

平成26年3月

〈平成25年度の活動〉

- 4月 市民の森づくり(植樹)
- 5月 総会
- 6月 小学校エコモデル事業
- 7月 市民の森づくり
川遊び・鮎釣りセミナー
- 8月 川のセミナー
- 9月 興津川クリーン作戦
- 11月 森林探検隊
視察研修
- 2月 視察研修

目次

- 1 山が好き、市民の森づくりが好き
- 3 興津川保全市民会議の活動へ参加して 夢ワカメ・ワークショップ・視察研修(横浜臨港パーク)
- 5 「森林探検隊-新企画空中スライダー」
- 6 参加者の感想
- 7 清流・興津川をもっと美しく! 興津川クリーン作戦
- 8 川の生き物と仲良くなろう お昼は楽しく流しソーメン 第18回 川のセミナー
- 9 「興津川でみられる生き物に学ぶ」 総会講演会より
- 11 興津小学校出前講座、鮎釣り教室 など

再生紙及びベジタブルインクを使用しています。

山が好き、市民の森づくりが好き

レポーター 滝本 耕太郎

お父さんに背おわれて初参加

ぼくはよちよち歩きのところから市民の森づくりに参加していたそうです。初めて来たときは、しょいこに背負われていたそうですが、もちろんおぼえていません。みんなで橋をつくるので、クギを打たせてもらったことは覚えています。ぼくは毎回とても楽しみに参加してきました。山のおじさんたちとはすっかり顔見知りです。



山の中の橋造りでの釘打ち手伝った



お父さん、お母さん、にいさん、とボク（右下）

おじさんたちと市民の森づくり

毎年夏には、山の下草がりをします。

いつも登り始める前にかまをとぎます。かまのとぎ方も教わりました。

今年も下草をかりに行きました。山はかなり急な登りです。いつもは、草がぼくの背よりも高く生えているのですが、今年はシカがたくさん食べてしまったらしく、ぜんぜん生えていませんでした。

山の上のほうでは、太い木の皮がたくさんはがされていきました。おそらくクマにやられたのだらうということです。シカもクマも木の皮のうらの白い部分が大好きなのだそうです。

皮をはがされた木は、かれてしまうそうです。



百年の森にしたい樹を選んで、家族の名前を架けた

ぼくはここでシカのふんやイノシシのふんを見つけたこともありました。

みんなでいろいろな木の植林もしました。

もっと上に登っていくとてんぼう台があります。てんぼう台からはいつも、遠くの景色がよく見えたのですが、今回登ってみたら、まわりの木が育ってしまって、すっかり景色が変わっていました。木が育つのはあたりまえのことなのですが、ぼくはとてもびっくりしました。



お昼休みは美味しいおむすびを親子で食べる

帰りには滝に寄って

帰りはいつも滝によります。とてもすずしくて気持ちのよいところです。とても大きなカエルがすんでいて、何回か会ったこともあります。ここでイノシシの赤ちゃんが死んでいるのを見たこともありました。

小学六年生になって

ぼくは4月から6年生になります。ソフトボールのチームに入ったので、毎週試合や練習があり、市民の森づくりにもあまり参加できなくなってしまいました。とてもさみしいです。

みねの子山そうでのこともいい思い出です。森たんけんにごんにやく作り、火おこし、いろいろなことを教わりました。イノシシ汁もごちそうになりました。

これからも参加します

ぼくは山が大好きです。ぼくたちが大人になったころ、山はどうなっているのかなあとと思います。どこの森や山もみんなの手で守られていなければならないと思います。ぼくは大人になってもずっとこのような活動に参加していくつもりです。



いつもお父さん、お母さんと参加してきました

市民の森づくり参加者の集合写真。御前の滝でさわやかな水しぶきを浴びて一休み！ キモチイイ～



レポーター 布施奈美

活動に参加して1年

私達親子が興津川保全市民会議の活動に参加して、約1年がたとうとしています。最初に参加した活動は、「植樹とタケノコ掘り」だったと記憶しています。参加動機は、単純に「タケノコを掘ってみたい！ 新鮮なタケノコが食べたい！」というような、やや食べ物に釣られての参加でした。

タイ・バンコクで約5年間の都会生活

私達の家族は、息子が3歳の時に夫の転勤に伴い、タイ・バンコクで約5年間を過ごしていました。バンコクは、私が想像していた街よりずっとずっと都会で、高層ビル、デパート、たくさんホテルが建ち並ぶ。そして、ひたすら続く車の渋滞と人。たっぷり排気ガスで汚染された空気の中での生活。駐在人のほとんどは会社の規則で車の所持・運転は禁止されているため、週末に自然を求めてドライブなんてことは出来ません。バンコクでの5年間の生活は、まさに「かごの中の鳥」といった感じでした。

自然とか環境保全などとは無縁の生活の中で、息子が4歳・5歳・・・成長していくのを目にしながら、感性が豊かな幼少時代に自然とふれあい、自然を通しての色々な体験をさせてあげたいなと願っていたものです。

シシ鍋なんて気持ち悪い！から大好きへ

そして、日本へ帰国。

興津川保全市民会議の活動に参加したての頃

は、「俺、シシ鍋なんか食べない。イノシシなんて気持ち悪い！」なんて言っていた息子。

でも、今は大好き！また食べたいと言って積極的に代わりするのは、毎度のこと。



竹ぼっくりで初めての散歩

興津川では、大人の私でもちょっと大丈夫かしら？と思うような深さの川で泳ぎ回ったり。

川辺での流しそうめんは、やみつき！山では、木と木の間をターザン気分でスロープ渡り！人前では口数が少なく感情を表に出さない息子も、毎回活動に参加した後は、「今日も楽しかったよ！」と必ず口にします。



計良森林インストラクターから森の生物の話聞く

横浜での夢ワカメワークショップへ

1年を通して数々の活動参加がきっかけで、11月30日横浜みなとみらい臨港パークでのイベント「夢ワカメワークショップ」へ参加させて頂きました。ここで体験したのは、ワカメの種付けと収穫です。種付け作業はとても簡単。太さ8ミリくらいの細い糸の間に、長さ10センチ・重さ数グラムの子ワカメを挟み込む。その種糸を太めのロープに、挟み込み海中に設置された筏に取り付ける。あとは、2ヶ月後の収穫を待つのみ。「大きく育ちますように！」と願いを込めて。この長さ10センチ程度の子ワカメが、たったの2ヶ月間ほどで1～2メートル、重さ4キロになるのもあると説明を受けたのですが、「本当に？」と半信半疑な私。



横浜港内のイベント広場が会場

「夢ワカメ・ワークショップ・視察研修」横浜臨港パークに参加して

平成 25 年 11 月 30 日 (土) - 2 月 1 日 (土) 主催：夢ワカメ・ワークショップ実行委員会



プラバンに名前と絵を書いて、トースターで焼いて名札に



岸壁から 10 m 程に浮かべた筏にダイバーが据え付ける



2 ヶ月後



元の種ワカメと名札を取り付ける



大きく育ったワカメを引き上げる

親子 2 人で、こんなに沢山のワカメ収穫できました



会場で振る舞われたワカメの味噌汁。新鮮で、温かくて、美味しかった！



2 か月後 ワカメの収穫へ

年をまたいで 2 月 1 日、いよいよ収穫の日。確かに大きく育ってました！私の収穫分 3.1 キロ、息子分、2.6 キロ。長さは 100 センチ以上あったのではないのでしょうか。海から引っ張り出したときは、息子が「たこの足みたいー！」と叫んでいましたが、まさにその通り。たこ足がいくつも絡み合ったような、ぐによぐによ、ぬるぬるといった感じ。そこで収穫されたワカメをお味噌汁にしての試食会。冷えた体に染み入りました！

水質浄化とタイ・ミャンマー支援へ

このワークショップは、ただワカメを育て食して楽しむイベントではありません。しっかり環境保全につながっているのです。

東京湾の海は、工場・家庭からの排水が原因で栄養塩が過多となり、それが赤潮を発生させるとのこと。そこで、ワカメが過多となっている栄養塩を吸収することによって水質浄化が図られるとのこと。さらには、ここで収穫したワカメを山岳地帯に住むタイ・ミャンマーへ届けるという目的があります。ミネラル・ヨードが含まれるワカメを山岳地帯に住む子供たちは、食べることができません。ヨード不足が原因で、甲状腺や成長障害・発達障害を引き起こすそうです。

ワカメが海の環境を整える。タイ・ミャンマーの子供たちへ寄付することで、人間の体の育成の手助けをする。さらに、人と人とのつながりの大切さを教えてくれる。そして、食して楽しませてくれる。このワカメの育成、本当に一石二鳥どころでは無いくらいの活躍ぶりですよね。とても素敵な活動だなと思いました。そして、自然と私達人間、お互いに助け合ってこそ共存できるんだなと再確認させられました。

これからも活動に参加します

興津川保全市民会議に携わって下さるスタッフの方々の自然保全への思いを感じながら、これからも積極的に活動へ参加していきたいと思っています。

興津川保全市民会議 事業委員 (S-GIT) 奥寺利充

新企画「空中スライダー」

去年は雨で中止になったので2年ぶりの森林探検隊です。参加者は駐車場から歩いて登ってきました。今回は探検コースに新しいメニュー「探検沢歩き」と「空中スライダー」を加えました。

イノシシの檻の見学

探検隊は、計良(けいら)森林インストラクターの森の中の動物や植物についての楽しい話を聞きながら移動します。最初にイノシシを捕獲する檻を見学し、実物の頭の骨を見せてもらい、イノシシの生態を教してもらいました。

丸木橋を渡り、急斜面をよじ登る

そこから新ルートで初めて歩く道のない沢を、木や枝をかきわけながら登って行きました。

沢ガニやカエルを見つけた子もいたようです。

丸木橋を渡って急斜面をよじ登ってゆくと、探検隊の冒険イベントである「空中スライダー」が待っています。谷の間に50mほどのワイヤーを張り、ハーネスを付けてぶら下がり、滑



慎重に丸太橋を渡る

車ですべり降りて行きます。今回低学年の子が多かったのでサポートする側は心配しましたが、みんなビビることなくチャレンジしてゆくのを見ると、日本の子供もまだまだいけると、感激してしまいました。

昼食は猪肉汁

昼食では、女性委員がしっかり煮込んだ猪肉汁が山荘で出ました。何杯もおかわりをする人が続出で大鍋もあつという間に完食してしまいました。昼休みに遊ぶジャンボシーソーは大人気で、いつまでもやめようとしません。

竹工作にみんな夢中で挑戦

午後はみんなで竹を切りだして竹工作をしました。「竹ぼっくり」や大人は「一輪挿し」

慣れないノコギリを使って作ることに、子供はすぐ飽きるだろうと思っていました。ところが、一人で二個も作る子がいたりして、夢中になって作っている様子を見ると「森林探検隊に来る子はちょっと違うなあ」と、またまた感心してしまいました。

毎回恒例の白井コンニャク名人が作ったおみやげと、十分楽しんだ思いを持って、参加者は歩いて山を下って行きました。



長さ50m程の谷を渡る「空中スライダー」は、スリル満点で大人気!?

参加者の感想

◆「森林探検隊」で 楽しかったことはなんですか？◆

- ・色んな実をとれてうれしかった。
- ・シーソー（3人）
- ・竹で色々作ったこと（2人）
- ・森林探検で山を登り下りしたこと（2人）
- ・ロープで山を登ったりしたこと（2人）
- ・空中スライダーがスリル満点で一番楽しかった（4人）
- ・ロープを使って山を登ったこと
- ・空中散歩
- ・全部楽しかった
- ・森林散策はよくするのですが、道なき道を進む事は普段ないので、とても楽しかった（2人）
- ・山の中を歩いて植物の話、山の登り方の説明を聞いてとても楽しかったです。スロープ下りは童心に返った気持ちでとても楽しかったです。

◆今日の感想◆

- ・山の中を分け入ってとても楽しかった。
- ・一日本当に楽しかった。シシ汁美味しかった。
- ・山の中を自由に探検して、とても楽しかった。
- ・子供もとても楽しそうで、雨で少しぬかるんだ道も、また一つの経験。次回は濡れても良い格好できます。
- ・美味しい空気、清らかな沢水、天候にも恵まれ素晴らしい一日でした。
- ・探検隊は年少児では難しい場所もありましたが、山道をどんどん登っていく事が出来ました。沢蟹が沢山いて大喜びでした。
- ・普段のノコギリだと使用する機会がなく、ここで使い方の説明をしてもらいながらの工作は子供にとっても刺激的でいい体験になりました。



こんにゃく作り名人の白井さん



切り倒した竹を使って何をつくろうかな

- ・しし鍋いっぱい食べて美味しかったです。竹を切るのが楽しかった。ノコギリ使うのが楽しかった。



竹ぼうくりで歩けるかな

◆「こんなこと やってみたいな？」と思う事は？◆

- ・沢ガニ見つけたい。
- ・エベレスト登りたい。
- ・宝さがし。山の中に宝を隠して探すゲーム
- ・自然の物を使ったアート
- ・周辺の山道歩きなど
- ・森林にいる昆虫や花などの観察会
- ・火のおこし方とか、外で飯ごう等、アウトドアの遊び方を体験したいです。
- ・つり



森林探検を終え、全員で記念写真

高栄塗装

クリーン作戦参加のキッカケ

弊社は戸建住宅からマンション、公共工事など、幅広い塗装業務に加え、防水工事・リフォーム工事など多くの業務に携わっております。

「キレイ」「安心」「快適」な環境をつくり、社会に貢献させて頂くことをモットーと致しまして、社員一同、日々邁進しております。

一企業として地元地域に何らかの社会貢献に携わりたく考えていたところ、商工会議所様の「月刊Sing〜シング」にて興津川保全活動が行われていることを知りました。

興津川は交流や憩いの空間

会社と致しましても一個人と致しましても、夏になれば社員とバーベキュー、家族、友人と川遊びなど楽しい時間を提供してくれる交流の場所として興津川には大変縁があります。

また、興津川沿いにある遊歩道では川を眺めながらのジョギング、散歩などで四季折々、幻想的に変化する風景、薫り、色彩などにより癒しを感じる事の出来る空間となっています。

我々にとりましても、「興津川」は日々の生活に欠かせない憩いの場所となっています。

ゴミが捨てられている様子は哀しい

幼少の頃から興津川の近くで生活してきた私にとりまして、近年における河口や河川に大量に放置されるゴミなどにより景観、環境が損なわれる姿を見ることはとても悲しく、残念でなりません。幼少の頃と比べますと、確実に川はゴミなどで汚染され、憩いの場所として安全に楽しむ事が困難になりつつある気がします。人間ばかりでなく、川の生き物、草花など生態系がゴミにより汚染、破壊されている現実にも目を向け、認識しなくてはなりません。

クリーン作戦に参加し、ゴミの多さに驚き

毎年9月に行われております「興津川クリー

ン作戦」に、今年の参加で2回目になりますが、会社のメンバーと一緒に参加させて頂くことが出来ました。多少なりの想像はしていましたが、ゴミの種類、量にとにかく驚かされました。主

なゴミの種類としては、海から流されてきた浮遊物、バーベキューのゴミ、家庭用のゴミ、中には車のタイヤ、そして私



キャンプ場などには、バーベキューの素材ゴミが多く捨ててある

たちの職業に関わるペンキの空き缶などもあり撤去しました。ペンキの空き缶などのゴミを目にする事は、同業者としてとても恥ずかしく絶対に許せない行為であり、憤りを感じました。

企業として、個人として社会貢献を

まず、興津川がいつまでも綺麗で憩いの場所であり続けるには、一人一人が環境保護に関心を持ち、責任をもって行動をする事だと思います。例えば、身近に出来ることから言えば、ゴミの分別、そしてリサイクル等に高い意識を持つことにより、川に限らずどの場所でもゴミを出したら持ち帰り各自、社会性をもって処理する精神が生まれるのではないのでしょうか。

弊社と致しましても、「興津川クリーン作戦」等の環境に関する活動に参加する事で社員も一層、社会貢献から得ることの出来る清々しい気持ち、環境に対する意識を高める事が出来ております。今後も一企業、そして一個人としましても「興津川クリーン作戦」を含め他、色々な環境保全に社員一同、参加させて頂き少しでも社会貢献できる企業、人材になるよう全力を尽くしていく所存です。



大きなタイヤも捨てられていました



沢山のゴミを拾い、分別して修了しました

興津川保全市民会議 事業委員

8月24日に行われた川のセミナーは、心配された天気も雨も降らず、曇りで全体を予定通りに進められたことは大変良かったと思います。

午前中の採集は北野先生の連れてこられた学生さん達がよく働き、多くの魚などを採集できたので、午後の教室での勉強に役立てる事ができました。

参加してくれた子ども達も勉強熱心で、良く勉強してくれ、途中で飽きることも無く予定時間まで進化したのは嬉しいことでした。



承元寺橋の上の川に入り、水生生物の捕獲



永井彰先生の指導で上手に捕獲できました



流しソーメンは、いつも大人気で、子ども達は夢中で流れて来るソーメンをつかまえます



採取した生物を顕微鏡で観察



「川のセミナー」参加者全員で記念撮影

＜参加者の感想＞

■興津川でやってみたいこと、

こんな川にしていきたいな・・・などのご意見

- ・川遊び (2名) ・魚釣りやアユ釣り (4名)
- ・キャンプ (2名) ・バーベキュー (3名)
- ・川で出来るスポーツなど
- ・少年自然の家に泊まり夜空や星の観察、早朝でないと見れない〇〇の観察
- ・子ども達とイカダを作って川下りしたい
- ・家族でお客さんも連れて来たいです
- ・魚と一緒に泳ぎたい
- ・沢山の魚がいて、すごく魚が住みやすい川になったらいいなあ
- ・安全できれいな川であってほしい
- ・アユが住める川にしていきたい
- ・魚や水生生物が住みやすい川にしたいです
- ・広くきれいな川にしていきたい
- ・もっときれいな川にしていきたい (11名)
- ・皆でこのきれいさを守っていきたい
- ・全ての種類を生きれる川にしたい

「興津川でみられる生き物に学ぶ」 5月22日総会講演会 よい

—平成25年度 興津川保全市民会議 総会ならびに講演会報告—
興津川保全市民会議 事業委員 成瀬修一

興津川保全市民会議の総会が平成25年5月22日(水)18時30分から20時頃まで行われました。議事終了後には講演会が開催されました。そこで、総会と講演会の概要を報告します。

総会報告

望月事業委員長の開催のあいさつは、興津川保全市民会議は発足してから来年で20周年を迎えます。

そこで、興津川のアユの遡る川として、又、市民の水瓶であり、川遊びの場(憩いの場)として、生き物の豊かな川を30年、40年と残して行かなくてはならないと話されました。

次いで、山田会長の挨拶があり、本日の講演者であります永井彰先生を本年4月1日から興津川保全市民会議の顧問に就任して頂いたと報告されました。

続いて、顧問代表の挨拶として、静岡市長代理の剣持静岡市環境創造部長は、興津川などの清流を後世に継ぐために、静岡市シンポジウムを開催します。すなわち、来年3月にシロウオ・シンポジウムを開催すると同時に、来年2月と3月には観察会を開くと話されました。

その後、議事に入り、4つの議案が審議されました。すなわち、昨年度の事業報告と収支決算ならびに今年度の事業計画と収支予算です。いずれの議案も異議なく円滑に承認されました。なお、本年度の事業計画において、来年の20周年に向けて、記念事業を行う計画です。このために、会員や市民などから広く意見を募ります。また、PR用のビデオを作る予定をしています。という望月事業委員長の説明がありました。



山田興津川保全市民会議会長からのあいさつ



大勢の会員が参加してくれました



興津川保全市民会議のパンフレットや本も増えました

講演会報告

この度、興津川保全市民会議の顧問に就任されました、東海大学名誉教授の永井彰先生に講演をお願いしました。

永井先生は海洋細菌の専門家ですが、水生生物や昆虫など幅広い研究・調査をされています。特に、清水区黒川などで地域のチョウ類を研究・調査を精力的かつ詳細に行われています。

講演のテーマは、「興津川でみられる生き物に学ぶ～アユ・シロウオ・チョウなど～」です。

(1) シラウオとシロウオの違い

シラウオとシロウオは一般の人には混同されがちですが、シラウオはサケ科の魚で、体長約9 cmです。食べ方は、お吸い物や酢の物です。

シロウオは、ハゼ科の魚です。雄・雌のペアは暗くて狭い巣の中に籠もる、四畳半的な愛の巣を作ります。2月末から4月末にしかいません。砂地に穴を掘り、砂粒をくわえて外に運び、5 cm位の巣を作ります。

しかし、寄生虫に感染する恐れがあります。なお、東海大学海洋学部教授の秋山先生が初めて人工飼育に成功されました。

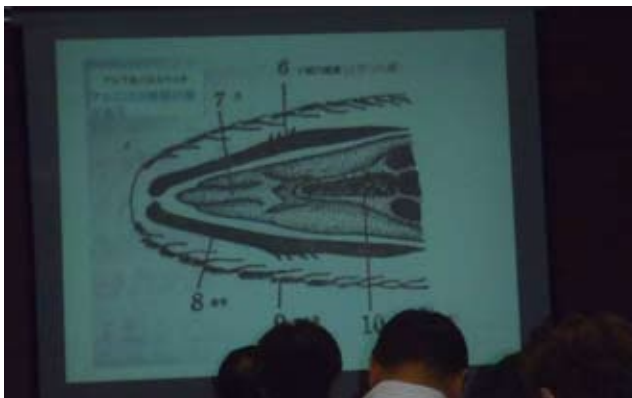
(2) アユ釣りについて

アユはサケ目サケ科に属する、サケの仲間です。ニジマス、ワカサギもアユに近縁で、脂鱬があります。

アユは歯に特徴があり、ヤスリ状の歯がぐると並んでいます。石の表面についた珪藻を食むため、石に食み後が着きます。なお、付着珪藻は葉緑素を持っていて、日光が必要なため、濁った水には育ちません。アユは友釣りの他に、ドブ釣り（毛鉤で釣る）をしますが、これは深い場所で群れになっているからです。

(3) 川のセミナーで出題した問題

アユは下顎円錐歯（尖った歯）が内側にあります。消化管は短く、幽門垂があります。（その孔に入れて消化を助ける）鼻があり、臭覚だけを感じます。両方の鼻は繋がっていません。鰓で呼吸をしますが、鰓の構造は、対向流れシステムといって、血液の流れと水の流れは逆向きになっていて、連続的に呼吸をしています。



魚のえら呼吸の仕組みについてのお話

(4) ナガサキアゲハの北上について

ナガサキアゲハの雌は後翅に白い斑点があります。1940年代には、沖縄、九州全域、四国南部にしか生息していませんでしたが、2000年には静岡県に、現在では関東南部にまで分布を広げています。

アゲハチョウ類では、大変遅くまで出現し、毎年のもっとも遅い出現記録は、10月19日から11月1日（平均10月26日）です。ナガサキアゲハは繭で越冬します。

(5) 興津川の清流をいつまでも保つために

興津川にアユ、アマゴの住める水を維持しなければなりません。BODでは2 mg / l です。そのためには、これからも水中の生物による水質の監視を続けて行きたい。同時に、地球温暖化による生物の変化にも注意して、観察して行きたいと思います。

以上のようにお話されました。講演の最初に授業の様に堅い話にならないようにしたいと言われていました。しかし、生のデータや実験結果なども掲示された、専門的で詳しい説明もありましたので、ユーモアも交えて丁寧に説明されましたので、大変に分かり易く、楽しく講演を聴くことができました。

永井先生、大変ありがとうございました。



参加者みんな真剣に聞いています

清水興津小学校でのエコモデル事業に協力

小学校4年生を対象として、6月6日には教室で興津川について学習し、6月13日は興津川に行き、体験学習をしました。そして、生徒たちが自分の研究テーマを決めて、色々調べた結果を10月10日に学校内で発表しました。

そして、3月8日には、静岡科学館のサイエンスピクニック2014で、発表しました。



教室で興津川の特徴や鮎の生態と鮎釣りについて



興津川での体験学習



研究成果の発表会

鮎釣り教室はいつも大人気

今年も7月27日（土）に、興津川非出資漁業協同組合の鮎釣り名人の協力を得て鮎釣り教室を開催しました。

午後は、川遊びをして楽しく過ごしました。



親子で仲良く鮎釣りに挑戦しました



興津川の清流で元気に川遊び

興津川保全市民会議の会員になり、「清流の都」づくりのため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000円 / 年
個人会員 1,000円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集以外 (株)地域デザイン研究所(望月)
発行日 平成26年3月

興津川保全市民会議事務局
(静岡市清流の都創造課内)

TEL. 054-221-1319

FAX. 054-205-2666

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1



ホームページもご覧下さい <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・

平成25年度は本格的な異常気象の始まりの年のように感じます。世界的にも、これまでにない大雨や大雪が降り、都市機能がマヒする地域が続出しました。日本でも平成26年の2月後半には異常な大雪に見舞われ被害もでした。一人ひとりが地球環境を守る努力が必要です。